

登録コード	FSJ04500	開講年度	2026				
授業題目	農産製造学特論					担当教員	堀江 智明
英文授業名	Topics in Production of Agricultural Products					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・5時限		対象学生
講義室	繊維2 9番講義室		授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】				⇔	【授業の達成目標】	
	26FS初・繊維学						
	【専攻】基礎科学に関連する総合的な自然科学分野の普遍的基礎学力，さらにそれを発展的に応用できる能力				⇔	基礎科学に関連する総合的な自然科学分野の普遍的基礎学力，さらにそれを発展的に応用できる能力	
	【専攻】専門分野における深い学識に基づく，卓越した実践的技術力および研究能力				⇔	専門分野における深い学識に基づく，卓越した実践的技術力および研究能力	
(2)授業の概要	地球規模で進行する環境問題、気候変動の近年の状況と農業生産への影響を理解できるようになる。それらを克服するための科学技術や新しい農業技術に関して調査・議論する。						
(3)授業計画	農業環境と作物生産に関して、以下の要点に沿って対面講義を実施する： （１）環境問題や気候変動がもたらす農業生産への影響 （２）新しい環境・エネルギー技術と農場生産 （３）植物バイオテクノロジーの現状と見通し また、その後、履修者に広義に関連するテーマを一つ絞ってもらう。そのテーマに関して資料を作成し、各自10分程度のプレゼンテーションと質疑応答を行う。						
(4)成績評価の方法	毎回の授業終わり内容に関する簡単な小テストを行う。また各自で実施したプレゼンと質疑応答の内容を評価する。それらを勘案して、本講義の命題に対して基礎レベルの知識が身に着的いたと判断されれば「水準にある」，応用問題に対応できる能力があると判断された場合「水準よりやや上にある」，やや難しい応用問題に対応できる能力があると判断された場合「水準よりかなり上にある」，授業内容をもとに複雑な考察を含めながら難しい応用問題に対応できる能力があると判断された場合「水準から見て卓越している」と評価する。出席や授業に対する姿勢を加味し、総合的に判断して最終評価する。						
(5)成績評価の基準							
(6)事前事後学習の内容							
(7)履修上の注意	対面講義＋プレゼンテーションで実施する。基本、水曜日1限での実施を予定しているが、実施日は履修生に相談し柔軟に変更する可能性がある。						
(8)質問,相談への対応	事前に連絡をとってくれば（horie@shinshu-u.ac.jp）、時間の許す限り対応する。						
(9)授業の形式	令和8年度も、全行程を対面で実施する予定である。しかし、新型コロナウイルス感染症等の状況や急な出張の都合次第では、Zoomを利用したライブ講義やeALPS経由でのオンデマンド配信による実施もあり得る。						
(10)学生へのメッセージ	講義の日程や内容詳細は、担当の堀江から履修生に連絡して相談する。						
【教科書】	特になし						
【参考書】	特になし						